

セメント系セルフレベリング材 ライオンハイフロー

ライオンハイフローはセメントを主成分としたセルフレベリング材で、従来の建築床下工法における「モルタル金ゴテ押さえ」「コンクリート直押さえ」に比べ、スラブに流し込み軽く均すだけで表面精度の優れた床下地が得られます。

ハイフローの特長

1.セルフレベリング性

セルフレベリング性(自己水平性)に富んでいますから、床に流し込み、ならずだけで精度の高い平滑な床面が得られます。

2.安定した品質

品質管理の行き届いた工場でのプレミクスされていますので、水を加えて練るだけで安定した品質が得られます。

3.スピード施工、省力化

施工性にすぐれていますので、1000㎡/日以上以上の施工も可能です。

ハイフローの用途

集合住宅、各種ビル、学校、病院等あらゆる建築床仕上げに精度の高い床下地が得られます。



従来床(コンクリート直押え)施工例



ライオンハイフロー施工例

取り扱い上の注意

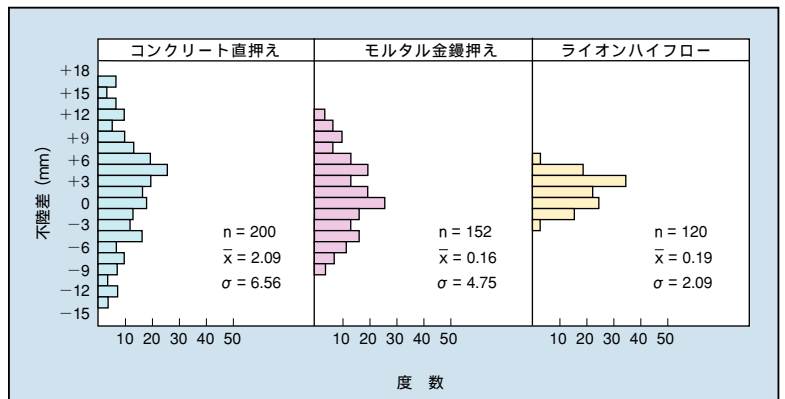
- 本製品は強いアルカリ性を呈し、目、鼻、皮膚等を刺激したり、粘膜に炎症を起こすことがあります。
- 作業時には、保護手袋、防塵マスク、防塵眼鏡等を必ず着用して下さい。
- 目に入った場合は、きれいな水で十分に洗眼し、直ちに専門医の診察を受けて下さい。
- 皮膚に付着した場合は、きれいな水で十分に洗い流して下さい。



ハイフロープレミクスタイプ 25kg紙袋入り

仕上がり精度

マノメーター方式により測定しました。ライオンハイフロー施工面、コンクリート直押さえ面およびモルタル金鍍押さえの水平精度を下表に示します。ライオンハイフローは水平精度に優れた床下地面が得られます。



施工計画

● 摘要下地

新設コンクリート 新設モルタル

※改装工事，特殊な下地で使用される場合はご相談下さい。

● 標準的な施工厚み

セルフレベリング材の施工厚みが10mm～25mmになるよう，下地コンクリートの仕上がり精度を確保願います。

※施工厚みが10mm以下の場合，レベリング性能が発揮されません。また施工厚みが25mm以上になれば不経済です。

● 施工時期

養生時に風，雨水，直射日光等が入らないようにする為，窓ガラスが入ってからの施工を計画願います。

※貼り物仕上げの1ヶ月前の施工が一般的です。

材料の手配

● ライオンハイフロー (25kg袋入り)



$$\frac{\text{施工面積 (m}^2\text{)} \times \text{厚み (mm)}}{15} = \text{使用量 (袋)}$$

※10mm厚みで1袋当たり1.5m²施工出来ません。

● 専用プライマー ライオンボンドA (18kg缶入り・6kg箱入り)

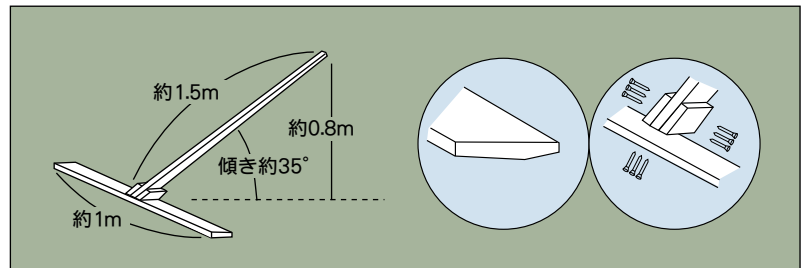


$$\frac{\text{施工面積 (m}^2\text{)}}{10} = \text{使用量 (kg)}$$

機材の手配

	大面積 (100m ² 以上)	小面積 (100m ² 未満)
混練器具	グラウトミキサー ハンドミキサー バケツ (水計量用) ドラム缶 (貯水用)	ハンドミキサー ポリタル (混練用) バケツ (水計量用) ポリタル (貯水用)
搬送機具	モルタルポンプ 搬送能力4m ³ /h位の ポンプが理想的です。 (打継ぎが少なく仕上がります。)	ネコ車 (一輪車) 等
バキューム 座敷ほうき	下地清掃に使用します。	
ゴム製水引き (ドライヤー)	プライマー塗布に便利です。 (左官バケでも可)	
均し用トンボ	左官定規で作ります。 (下図参照)	
左官ゲタ	均しを行う人は履いてください。	
土間ゴテ	厚みが薄くトンボを引くのが困難な場合に使用します。またチリぎわの均しに便利です。	
木製角材	施工厚みが厚い場合，堰止めに使います。	
ポリシャー	気泡跡，エフロレッセンス等が大量に発生した場合，研磨に使います。	

● トンボの寸法



● 混練器具

大面積=グラウトミキサー
一般の左官用ミキサーは
使用できません。

小面積=ポリタル+ハンド
ミキサー



● 道具

トンボ
土間ゴテ
左官ゲタ
ポリシャー
他
左官道具

● 搬送機具

モルタルポンプ
(2～3m³/h)



施工要領

下地処理
本施工前日

下地清掃

脆弱な部分（ノロ、レイトンス、雨にたたかれた下地等）は、ワイヤーブラシ、ケレン等で除去して下さい。下地コンクリート表面をバキューム、座敷ぼうき等で完全に清掃して下さい。

- 清掃が不十分だと接着不良となりハイフロースラリーの剥離の原因になります。

漏れ止め、陥没箇所の処理

ハツリ跡、1mm幅以上のクラック、10mm以上の凹凸、施工時に材料の漏れる恐れのある箇所等は、仕上がり面の不陸の原因となりますのであらかじめモルタル等で埋めておいて下さい。

ライオンボンドA（プライマー）の塗布

ライオンボンドA希釈液を全面に2回塗布して下さい。

[1回目：5倍液]（180g/m²程度）

たっぷり下地に流し込み、ドライヤー（ゴム製水引き）ですり込む様に延ばして下さい。

[2回目：3倍液]（180g/m²程度）

1回目塗布後2～3時間の乾燥時間をおいて塗布して下さい。1回目ほど吸い込みませんので、“たまり”が出来ないようによく延ばして下さい。

- 希釈率及び塗布方法を厳守して下さい。プライマーが濃すぎると付着強度が低下することがあります。また、薄すぎると気泡抑制効果が発揮されません。また、他のプライマーとの併用は絶対に行わないで下さい。



仕上がりレベルの表示

小部屋、廊下などは壁際に仕上がり位置の墨出しを行います。大部屋では墨出しと3～4m間隔を目安にモルタルの硬練りを用いて“あたり”を設置します。

材料の混練

[配合]

ハイフロープレミックス	標準水量
25kg (1袋)	6～7 ℓ

※ 水は正確に計量して下さい。

- 標準水量をオーバーしますと材料分離を起こし、表面強度不足、収縮ひび割れ（亀甲クラック）、剥離等の原因になります。

[混練方法]

混練を行う人は必ず保護メガネ、手袋及び防塵マスクを着用して下さい。

- 混練時にはかなりの粉塵が発生します。目や鼻、喉に入った時には、すぐにきれいな水で十分に洗浄して下さい。

グラウトミキサー（小面積の場合はポリタル）に所定の水を入れ、攪拌しながらハイフロープレミックスを徐々に投入します。材料投入後、約2分間以上混練して下さい。

- 材料の投入順序を間違えますと、練りダマやミキサーの停止の原因になります。また、混練時間が不十分ですとレベリング性能が発揮されません。

流し込み

練り上がったスラリーをモルタルポンプで圧送し、施工面の奥まった隅から順に2～3m幅を目安に流し込みます。（極力短辺方向に往復するようにし、打継ぎ部が早く重なる様に施工して下さい。）

- モルタルポンプでの圧送に先立ち、セメントのノロ水を必ず通して下さい。このノロ水はホース先で受けて施工面には流し込まないようにして下さい。



本施工

所定の厚さに達した後、“あたり”は必ず取り除きます。（施工厚みが厚い場合は木製角材等で堰を設け、打継時に取り除いて下さい。）

本施工

均し作業

均しを行う人は左官ゲタを履いて施工面に入って下さい。表面の均しは二段階で行って下さい。まず、表面の若干の凹凸が均一になるように軽く均します。さらにもう一度丁寧にトンボをあてて、表面を平滑にして下さい。

- 表面均しを終えた後、15～30分経過した表面は再均しをしないで下さい。

初期養生

全面立入り禁止とし、養生を行います。夏期は1日、冬期は2日の養生日数が必要です。養生時には窓を閉める、シートを掛ける等の処置を行なって下さい。また厳寒期には室温を上げる等の処置を講じて下さい。

- 硬化前に通風をうけると、表層クラック、シワ等が表面に発生することがあります。夏期に強い日差しを受けると、その部分の乾燥収縮が著しく進行し、亀甲状のクラックが発生後剥離につながる恐れがあります。また厳寒期に凍害を受けると硬化不良を起し、強度不足、剥離、仕上げ材との接着不良の原因になります。

陥没箇所

漏れ止め処理が不十分で陥没箇所が発生した場合は、薄塗り補修用モルタルでしごき補修を行って下さい。

気泡跡

気泡跡が残った場合、硬化前の通風による表層クラックが発生した場合は、必要に応じてポリシャーによるサンディング処理を行って下さい。

補修
本施工
3～5日後

表面のシワ

硬化前の通風による表面のシワが発生した場合、ポリシャーによるサンディング処理後必要に応じて薄塗り補修用モルタルでしごき補修を行って下さい。

エフロレッセンス

厳寒期には表面にエフロレッセンス（白華現象）が多量に発生する場合があります。その場合には施工後1～2週間後に全面ポリシャーによるサンディング処理を行って下さい。

乾燥期間

仕上げ材の施工時期は、ハイフローの表面水分が5～7%以下になってから行って下さい。施工時期、施工厚み、施工面積等によって異なりますが、夏期は1～2週間、冬期は2～3週間を目安として下さい。

仕上材の
施工

- 水分計がない場合はハイフローの表面に100×100cmのポリシートをガムテープ等でシールし、1～2日様子を見て下さい。ポリシートに結露や、ハイフロー表面の変色がなければ乾燥していると見なせます。

ライオンハイフローの物性値

項目	建設省「建築工事共通仕様書」品質基準	※ライオンハイフロー	試験方法	
フロー値	19cm以上	20.4cm	JASS 15M-103 (セルフレベルン グ材の品質基準) による	
凝結時間 (時間-分)	始発	1時間以上		8時間
	終結	15時間以内		9時間50分
圧縮強度	20N/mm ² 以上	22.9N/mm ²		
下地接着強度	0.7N/mm ² 以上	1.78N/mm ²		
表面接着強度	0.5N/mm ² 以上	2.02N/mm ²		
衝撃	割れ及びひがれのないこと	なし		

※財団法人建材試験センターにおける試験結果

使用および取扱いの前に、当製品の安全データシート(SDS)をお読みください。
本カタログの記載内容については、予告無しに変更する場合がありますので、予め御了承願います。



住友大阪セメント株式会社 建材事業部

東京 〒102-8465 東京都千代田区六番町6番地28
大阪 〒530-0004 大阪市北区堂島浜1-4-4(アクア堂島東館15F)
札幌支店 〒060-0003 札幌市中央区北3条西2丁目(札幌HSビル10F)
東北支店 〒980-6003 仙台市青葉区中央4-6-1(住友生命仙台中央ビル(SS30)3F)
北陸支店 〒920-0849 金沢市堀川新町2-1(井門金沢ビル7F)
名古屋支店 〒450-0003 名古屋市中村区名駅南2-14-19(住友生命名古屋ビル3F)
四国支店 〒760-0033 高松市丸の内4-4(四国通商ビル6F)
広島支店 〒732-0827 広島市南区稲荷町4-1(広島稲荷町NKビル7F)
福岡支店 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1-2-5(紙与博多ビル8F)

電話 03(5211)4752 Fax 03(3221)5624
電話 06(6342)7704 Fax 06(6342)7708
電話 011(241)3901 Fax 011(221)1017
電話 022(225)5251 Fax 022(266)2516
電話 076(223)1505 Fax 076(223)0193
電話 052(566)3202 Fax 052(566)3273
電話 087(851)6330 Fax 087(822)6870
電話 082(577)7645 Fax 082(577)7646
電話 092(481)0186 Fax 092(471)0530

本製品に関するお問い合わせ・ご用命は